

研修報告書No. 9

所 属：聖マリアンナ医科大学病院研修医

研修先：佐川町立高北国民健康保険病院

仁淀川町国民健康保険大崎診療所

高知県地域医療研修を終えて

1ヶ月間という短い時間でしたが、佐川町立国保高北病院及び仁淀川町立国保大崎診療所で地域医療研修をさせていただきました。

私は茨城県出身で、高知へは今回が初めてでした。こちらに来るまでは日常業務に関しても生活する上でも不安がありましたが、先生方はじめ病院の職員の皆さん、地域の皆さんの温かい心に触れ、本当に楽しい研修となりました。

私は約1年前に大学を卒業し、そのまま母校で研修生活を始めました。見知った先輩医師や同期が大勢いる中で、主に2次救急、3次救急を学んでいました。細分化され、専門性の高い大学病院の医療の末端で、高度な医療を行う指導医に小さな憧れを抱きながら、駆け出しの研修医として働いてきました。今年で研修生活も2年目となり、少しばかり医師の仕事に慣れてきた時にこの高知にやって来ました。

高北病院にやって来てまず驚いたのがお年寄りの多さでした。外来や病棟のみならず、指導医の浦口先生や沖先生との往診では、かなりのご高齢で、病気やさまざまな生活背景を抱えながらも、中には一人暮らしまでされている方がたくさんいることを知りました。大学病院という狭い世界しか知らなかった私は、その裾野にたくさんの方たちの生活があるということに気づかされました。医学だけでなく、医療には介護や福祉といったさまざまな問題が内包されています。自分が今まで見ていた‘医療’はほんの一部でしかなく、福祉や介護にかかわるすべての方たちとの連携なくして医療は成り立たないと痛感しました。これは特に、浦口先生が中心となって活動されている‘ずっとここに暮らす応援団’の皆さんと話したときにも強く感じたことでした。中でも浦口先生は‘医療’はもちろんのこと‘患者さんを全体的に診る’と仰っていたとおりに、こういったことをとても大事に考えておられました。

高知県の高齢化は全国の10年先を行っていると言われ、高知の地域医療はその最先端であると考えられます。将来地域医療を担うことを考えている私にとって、浦口先生はロールモデルとなるような先生だと思いました。

高北病院や大崎診療所では小規模であるがゆえ、あるいはこの地域の特性なのか、コメディカル、地域連携室、事務などさまざまな職種の皆さんが親切で距離が近く、働きやすい環境だと思いました。また先生方は地域のニーズに応えるべく専門に拘わらず幅広い知識や技術に基づき診療にあたりながら指導してくださいました。この良い環境の中で私は病棟、外来、検査室、リハビリ、デイケア、訪問看護など様々な場面で勉強ができ、知識の面でも世界が広がったような感覚でした。

そしてなんとといっても、高知と、佐川という町のみなさんの明るく、すばらしい人間性に触れられたことが、この一ヶ月で一番楽しかったことです。初めて訪れた土地とは思えないくらい居心地よく過ごさせていただきました。最終日には高北病院院長の和田先生、浦口先生、高知医療再生機構の皆さん、聖マリアンナ学長の三宅先生など皆さんが一同に会し、その場に私もいることができたことは本当に幸せでした。

高知に来て、本当に忘れられない経験ができました。最後に佐川のみなさんと高知の地域医療に関わるすべての皆さんに心から感謝いたします。ありがとうございました。